

独占撮りおろし
橋本梨菜
Gカップの「黒い宝石」



完熟Gカップボディ
杉原杏璃
蜜の滴る40



美ボディの記憶
嶋村かおり



永遠の美乳ヌード
スペシャル撮りおろし



鎌倉殿の比奈役で人気急上昇
堀田真由

100歳まで
保存版!

首・肩・背中・腰・膝・足首そして足裏
痛み消し「関節ストレッチ」大全

その滴は神々のたまもの
日本酒の1700年史
樹氷、流水、ダイヤモンドダスト
冬の絶景、白銀のニッポン

大波紋!
佳子さま
誕生日動画の
不敬な反応

春の大乱へ!
菅の
岸田漬しが
始まった



特別定価
550円
1/28
Weekly Gendai
2023
January

敵対スタジアム
ZARD
「負けなくて
を語ろう」
股役稼業
寺田農

戦慄のスクープ証言!

「娘はワクチンで血を噴いて死んだ」

今入ると損する
大学ランキング

東京・横浜・札幌・名古屋・大阪・京都ほか
M8「メガ連動大地震」の危険度マップ

Ⅲ ボケを防ぐ
おすすめ
旅行プラン

Ⅳ 認知症に
遊びと趣味

アルハイマー新薬
エーザイ
CEOが語る秘話

特級保存版
228
認知症にならない
死ぬまで
の方法

黒田退任前に仕込もう
「金利上昇に勝つ」
とっておき銘柄40
特別
徳川家広×
磯田道史
「こうしろ家康」

Ⅰ 脳に効く
「ブレイン
フード」
はこれだ

Ⅱ 脳を
活性化!
名曲・映画・
テレビで

WB C ジャパン 世界一奪還へ
「天谷、村上、
ダルビツシユの使い方」
トヨタが中国の軍門に下る日
名曲・映画・
テレビで

東大は過労になりがち
30年後は
不幸になる
慶應／コスパ最強
関西学院、モ
テるけど大損する
立教・青学 ほか

Ⅴ 脳が
弱らない
日常生活

石川さゆり、
美空ひばり、大相撲、
映画は「網走番外地」

必見! 日銀・黒田退任に備えて今から仕込む

「金利上昇に勝てる」とも「銘柄40」

「アウトバウンド」に注目

10年にわたって続いた「異次元の金融緩和」による超低金利政策が終わろうとしている。
12月20日に日本銀行の黒田東彦総裁は、長期金利の上限を0・5%に引き上げ、「実質的な利上げ」に踏み切った。
「その結果、長期金利は急上昇し、円高が急速に進みました。輸出企業に

マイナスとなる円高を嫌って、日経平均株価は大きく値下がりましたが、その中で唯一株価が上昇したのが、金融セクターでした。とくに銀行株と保険株は、日銀の利上げによって、金利収益の拡大が見込まれ、株価は大きく上がっています。そして、日銀が今年中にも正式な利上げに踏み切る

可能性が高い以上、今後この傾向は続くでしょう」(マーケットバンク代表の岡山憲史氏)
何と言っても、注目は三菱UFJフィナンシャル・グループや三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループの3メガバンクだ。岡山氏が続ける。「メガバンクはPBR(株価収益率)が10倍前後、PBR(株価純資産

倍率)が0・6倍程度と割安です。その割に、配当利回りは3〜4%と高い。持っているだけで高い配当が見込めるし、大きく株価が上がったら売却してキャピタルゲインを得ることもできます」
金利上昇は生命保険会社にも恩恵をもたらさそう。松井証券シニアマーケットアナリストの窪田朋一郎氏がこう話す。「金利上昇で債券市場の

本格的な利上げは後任に任せて退任する黒田総裁

利回りが好転すれば、債券で運用する生保会社は収益拡大につながりやすい。第一生命ホールディングスやかんぽ生命保



遅れるな

といった大手生保の株価はまだ上昇途中で、伸びしろは大きいでしょう」
今回紹介する銘柄は識者の評価を元に、将来予想される株価水準を表す「目標株価」を編集部で試算した。この目標株価に近づいたら、まずは利益確定の売りを考えよう。

日本の金利が上昇すれば米国との金利差が縮まり、マネーが日本に還流して、円高になると言われる。コロナの沈静化も相まって、日本人が再び海外旅行を活性化する「アウトバウンド」需要も見込まれる。これは、日本人に馴染みの深い航空会社、日本航空やANAホールディングスの株価に追い風だ。

「海外旅行に強みのあるエイチ・アイ・

エスにも注目しています。最悪期には売上高がコロナ前の7分の1にまで激減しましたが、最近復調傾向にあります。年後半には日本人の海外旅行需要が増えていくはずなので、それを見越して今から仕込んでおくのもいいと思います」(絆アセットマネジメント代表の小沼正則氏)
昨年からの急激な物価

高は、資源価格の高騰に加えて、円安による影響が大きかった。ロシアによるウクライナ侵攻はなおも予断を許さず、そのため、資源価格の先行きは読めないが、円高になれば、輸入物価は落ち着くと見られる。これは原油や天然ガスの輸入に頼らざるをえない電力会社にとっては大きなメリットになりそうだ。

円高メリットを享受する株

ちばぎん証券元顧問の安藤富士男氏が言う。「金利上昇で、円高になれば輸入企業に大きな恩恵をもたらします。円安に苦しんでいた企業のなかには、一気に業績を回復させるところが出てくるでしょう。私はそのなかでも、電力会社を選びたい。とくに関西電力と中部電力のメガ電力です。両社は円安と燃料費高騰による業績悪化で、3月の期末配当を「未定」とし

ています。円高メリットを享受して配当を継続する可能性があります。他にも九州電力はテーマ性があり、面白いかもしれませぬ。熊本県では台湾の半導体メーカーTSMCなどが工場を建設中です。管内の電力需要が増えることで、九電の業績が長期的に向上することも期待できます」

智劍・Oskaグループの社長がこう話す。「二ト리는海外で家具を生産し、輸入して国内販

「悪い円安」から一転、日銀の為替介入と実質利上げで、円高傾向が加速している。超低金利が長らく続いたため、突然の「利上げ相場」に困惑している人も多いはずだ。株のプロたちが先行きを見通す。

「繊維大手の東レは、円高反転と原油価格の下落で、原材料価格を抑えられる恩恵を受けます。森永乳業は、今期決算こそ減益予想ですが、円高で原材料価格が低下すれば利益率も回復するでしょう。同社はベトナムやインドネシアでの売り上げも好調です。アジアの新興国は米国の金利上昇がピークアウトする

売することから、円高メリットの代表的な銘柄です。日銀が為替介入に踏み切った昨年9月から上昇基調ですが、同社は1円円高になると約20億円も利益が増えたとされ、円高基調が続くなら、まだまだ株価の上昇余地はあると思います。メニューの多くを輸入食材に頼るサイゼリヤも円高が恩恵になる銘柄です。値上げを控えています。客が増えている効果もあります」(カブ知恵代表の藤井英敏氏)
日銀が利上げを続けるということは、日本のインフレ傾向がなかなか収束しないことの裏返しでもある。物価高で消費者の節約志向はますます強

「二ト리는海外で家具を生産し、輸入して国内販

必見! 金利上昇に勝てる銘柄②

銘柄名(銘柄コード)	株価	目標株価	寸評(選者)
ニトリホールディングス(9843)	1万6590円	2万円	家具の製造・販売最大手。金利上昇で円高になれば、大きなメリットに(岡山・窪田・藤井)
サイゼリヤ(7581)	3145円	3500円	低価格イタリアンを展開。値上げを控えて、顧客は増加。円高はメリットに(窪田・藤井)
日清製粉グループ本社(2002)	1603円	2200円	製粉で圧倒的シェアを誇る。円安が是正されれば、厳しい原材料高が緩和される(小沼)
ワークマン(7564)	5270円	6500円	作業服販売チェーン。女子向けも人気。海外生産メインで、円高反転はメリットに(藤根)
キュービーネットホールディングス(6571)	1386円	2000円	低価格理容店『QBハウス』を展開。インフレが続けば、節約志向から顧客を増やす(藤根)
ネクステージ(3186)	2527円	3000円	中古車販売大手。中古車市場の活況は続き、増収増益が続く。期末配当も増配へ(藤根)
テンポイノベーション(3484)	1015円	1200円	飲食店向け店舗の転貸借業を行う。不況時は店舗の入れ替わりが増え、同社が潤う(藤根)
チャーム・ケア・コーポレーション(6062)	1141円	1400円	介護付き老人ホームを展開。金利上昇による景気悪化で、人手不足が解消される(藤根)
日本製鉄(5401)	2512円	3300円	粗鋼生産量で国内首位。年後半に中国がコロナから回復すれば需要拡大(植木・小沼・窪田)
日本たばこ産業(2914)	2543円	3500円	たばこ事業が中核で、需要増が見込まれる海外展開も強化する。配当利回り7%超(坂本)
三菱自動車工業(7211)	460円	700円	自動車大手。半導体不足も緩和され業績好転。EVシフトも進んでおり、将来性に期待(坂本)
本田技研工業(7267)	3036円	3500円	世界7位の自動車メーカー。資源高や半導体不足が一服すれば、業績も大きく回復(広木)
東光高岳(6617)	2099円	3000円	電力ネットワーク関連機器が主力。需要が拡大するEV向け充電器で注目を集める(藤井)
ヤマハ発動機(7272)	2959円	3300円	世界大手のバイクメーカー。アジアで業績が絶好調。円高が限定的なら狙い目(坂本)
東京エレクトロン(8035)	4万4020円	5万円	半導体製造装置大手。22年に大きく売られた優良株で、揺り戻しに期待できる(窪田・広木)
レーザーテック(6920)	2万5510円	3万円	先端半導体向け検査装置が軸。米金利上昇の一服で、ハイテク企業に追い風(窪田・広木)
トーカロ(3433)	1150円	1500円	コーティング加工大手。半導体製造装置向けが主力で、市況の好転が追い風になる(藤井)
日本ピラー工業(6490)	2904円	3500円	半導体製造装置向け継ぎ手が利益の柱。ロケットや船舶など広い分野で活用される(藤井)
ピーエス三菱(1871)	603円	1000円	建築・土木を総合的に展開。PBR0.62倍と割安だが、配当利回りは5%弱と手堅い(坂本)
リソー教育(4714)	358円	500円	首都圏で受験塾を展開。国や自治体の支援もあり、子育て関連には注目が集まる(坂本)

※「株価」は1月16日現在。「目標株価」は選者の評価を元に、将来の株価水準を予想したもの

も遅くはないでしょう(「ティー・アイ・ダヴリュ代表の藤根靖晃氏」)

年明け以降、急激な勢いで上昇してきた日本製鉄だが、長い目で見ればまだまだ上昇余地があるという識者は多い。鍵となるのは中国だ。

「中国政府がゼロコロナ政策を撤回し、現在は大きく混乱していますが、今年の後半には集団免疫ができて、景気が回復していくと見られます。そうすると、鉄鋼需要が旺盛となり、日本製鉄の鋼板の引き合いも強くなるでしょう。なにより、現状で配当利回りが約7%と高く、PERも4倍以下とまだ割安です(前出・小沼氏)。

借金をしていないから金利上昇は関係ない、などと思わないでほしい。日銀の利上げは企業活動を減速させ、景気後退をもたらしかねない。金利上昇に勝つために堅実な株式投資を検討しよう。

銘柄の選者：安藤富士男(ちばぎん証券元顧問)、植木靖男(証券アナリスト)、大川智宏(智剣・OskarグループCEO)、岡山憲史(マーケットバンク代表)、小沼正則(絆アセットマネジメント代表)、窪田朋一郎(松井証券)

必見! 金利上昇に勝てる銘柄①

銘柄名(銘柄コード)	株価	目標株価	寸評(選者)
三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)	949円	1300円	民間金融国内最大手。金利上昇で利ざやの改善が見込める(安藤・植木・岡山・小沼・窪田)
三井住友フィナンシャルグループ(8316)	5561円	9000円	3大金融グループの一角。PBRは0.6倍と割安で、配当利回りも高い(安藤・岡山・窪田)
みずほフィナンシャルグループ(8411)	2009円	3000円	メガバンクの一角。金利上昇のメリットを受けて、安定的な成長に期待(安藤・岡山・窪田)
第一生命ホールディングス(8750)	2984.5円	3500円	大手生保。債券市場の利回りが好転すれば、業績改善(植木・岡山・小沼・窪田・坂本・広木)
かんぽ生命保険(7181)	2221円	4000円	国内最大級の生保。PBRは0.4倍と低いが、金利上昇の恩恵が期待できる(岡山・窪田)
野村ホールディングス(8604)	503.2円	1000円	国内証券のガリバー。24年の新NISAに向けて、株取引の活性化が追い風になる(植木)
SBIホールディングス(8473)	2686円	3200円	証券口座数国内トップ。金利上昇で提携している地方銀行の業績も改善していく(植木)
日本航空(9201)	2580円	3000円	国内2位の航空会社。海外旅行の需要が増えると、株価もコロナ前の水準に(植木・広木)
ANAホールディングス(9202)	2764円	3200円	国内最大手の航空会社。円高で日本人の海外旅行が活発になり、同社の業績に寄与(広木)
東海旅客鉄道(9022)	1万5450円	2万円	JR東海。円高による燃料価格の下落とインバウンド需要が業績の好転をもたらす(大川)
エイチ・アイ・エス(9603)	2021円	3000円	旅行会社。円高で日本人の海外旅行が増えれば、コロナで落ち込んだ業績も急回復(小沼)
J.フロントリテイリング(3086)	1100円	1500円	大丸松坂屋百貨店を運営。中国のコロナが一服すれば、インバウンド需要は回復へ(大川)
三越伊勢丹ホールディングス(3099)	1316円	1600円	百貨店トップ。金利上昇で富裕層の購買力が増せば追い風に、インバウンド復活も(広木)
関西電力(9503)	1216円	1400円	業界2位の電力会社。金利上昇で円高になれば、燃料費圧縮で業績好転が見込める(安藤)
中部電力(9502)	1291円	1400円	電力3位。料金転嫁は限界を迎えているが、円高が追い風。配当を継続する可能性も(安藤)
九州電力(9508)	712円	1000円	九州財界の雄。円高に加え、台湾TSMCの熊本での新規工場建設などにも注目したい(安藤)
住友金属鉱山(5713)	5006円	6000円	非鉄金属大手。金鉱山を持つため、インフレに強い金関連銘柄として再注目されよう(安藤)
味の素(2802)	4082円	5000円	調味料国内トップ。値上げ効果で業績を持ち直し、円高で原料高がやわらぎそう(小沼)
東レ(3402)	739.6円	850円	繊維大手。円高への反転と原油価格の下落で、原材料価格が安くなる恩恵を受ける(大川)
森永乳業(2264)	4725円	5500円	業界2位。円高で原材料価格が下落すれば、利益率も改善の見込み。海外事業も好調(大川)

くなる。そんな節約社会で勝つ企業はどこか。

「22年12月の企業物価指数(企業間で取り引きされるモノの価格動向)は前年同期比で10・2%も上昇しており、安売りしているのは立ち行かない水準です。そうすると、コストを価格に転嫁しながら、業績を伸ばす企業に注目が集まります。

その筆頭がワークマンです。同社は高品質で安い作業服やカジュアルウェアが人気。海外生産がメインなので、円高反転はメリットに働きますし、今年の春夏から値上げに踏み切ることも視野に入れてはいる。値ごろ感を維持できれば、株価は反転するのではないかと。ほかにも、低価格ヘアカット「QBハウス」を展開するキュービーネットホールディングスや、中古車販売のネクステージなど、消費者の節約志向にマッチした企業から、これから株を買って

シニアマーケットアナリスト)、坂本慎太郎(こころトレード研究所所長)、広木隆(マネックス証券チーフ・ストラテジスト)、藤井英敏(カブ知恵代表)、藤根靖晃(ティー・アイ・ダヴリュ代表)